

Software Japan 2009

ITのパラダイムシフト
—クラウドで何が変わるか?—

開催日 ▶ 2009年1月27日(火) 開催会場 ▶ 大手町サンケイプラザ
<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2009/>

時間 9:30~17:40 (受付開始9:00~)

■全体セッション

- [9:30~ 9:35] オープニング/ITフォーラムの紹介
- [9:35~12:30] 第1セッション: キーノートセッション
- [13:30~15:30] 第2セッション: パネルセッション
- [15:40~17:35] 第3セッション: ザ・ジャパンソフトウェアセッション
- [17:35~17:40] クロージング

■ITフォーラムセッション

- [10:30~12:30] 午前のITフォーラム
 - イノベティブ社会基盤フォーラム
 - 福祉情報システムフォーラム
 - ITダイバーシティフォーラム
 - IPAフォーラム
- [13:30~15:30] 午後のITフォーラム
 - ユーザスタディフォーラム
 - サービスサイエンスフォーラム
 - 高度IT人材育成フォーラム
 - Web 2.0 フォーラム

会場 大手町サンケイプラザ [東京都千代田区大手町1-7-2]

主催 社団法人情報処理学会

協賛 社団法人 情報サービス産業協会, 社団法人 電子情報技術産業協会, 社団法人 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, XMLコンソーシアム

後援 文部科学省, 経済産業省, 総務省, 独立行政法人 情報処理推進機構

▶ SPONSORS

株式会社日立製作所

HITACHI
Inspire the Next

日本電気株式会社

NEC

株式会社東芝

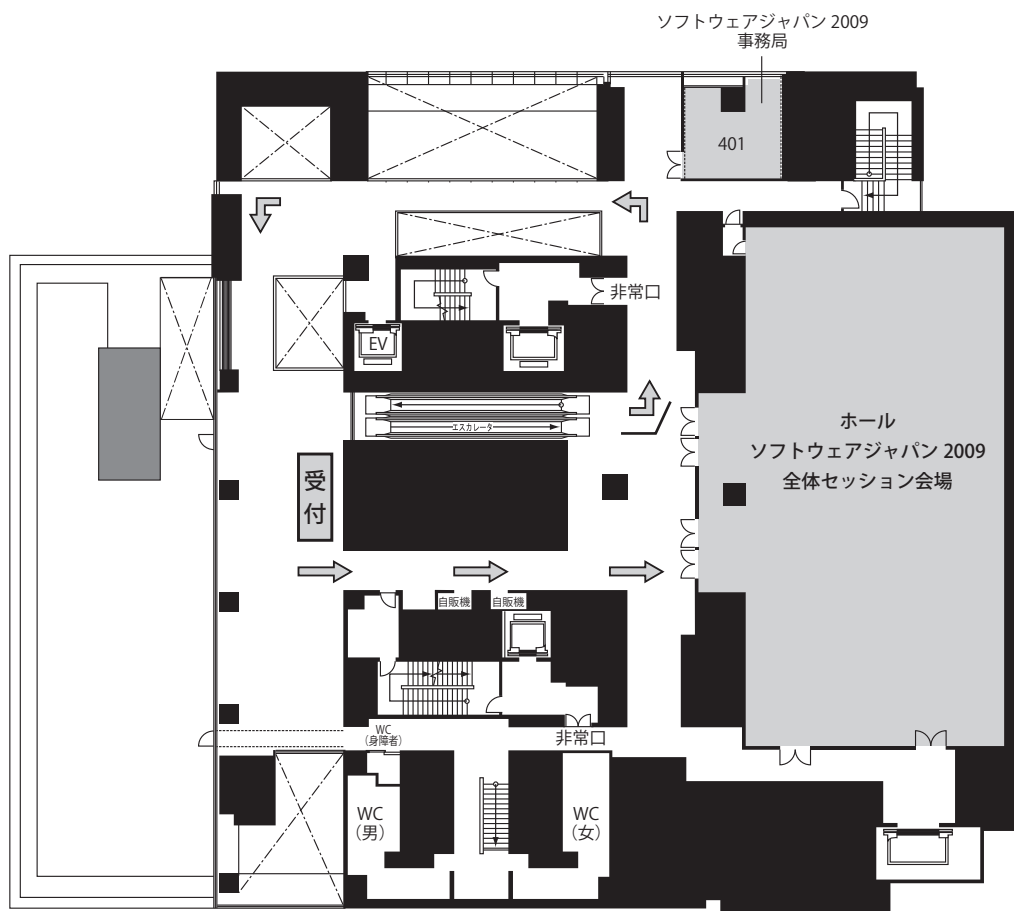
TOSHIBA
Leading Innovation >>>

富士通株式会社

FUJITSU

会場案内図

4F



3F



ソフトウェアジャパン 2009 参加者への注意事項

- 当施設は全館禁煙となっております。喫煙は3Fにある喫煙ルームにてお願いいたします。
- 施設内では、ソフトウェアジャパン 2009 のネームタグを携帯いただきますようお願いいたします。
- 手荷物、貴重品、PC等は各自で管理していただきますようお願いいたします。

ソフトウェアジャパン2009 プログラム ITのパラダイムシフト ～クラウドで何が変わるか?～

■ 全体セッション ■

[会場 4F ホール]

オープニング：ITフォーラムの紹介

| | |
|-----------|--|
| 9:30～9:35 | ITフォーラムのイントロダクション 徳田英幸 (情報処理学会 技術応用運営委員会委員長/慶應義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長) |
|-----------|--|

第1セッション：キーノートセッション [9:35～12:30]

| | |
|-------------|---|
| 9:35～10:25 | 招待講演 (1) 「クラウド・コンピューティング時代の到来」 城田真琴 ((株)野村総合研究所 情報技術本部技術調査部 主任研究員) |
| 10:40～11:30 | 招待講演 (2) 「企業ITシステムにおけるクラウドコンピューティング」 三崎文敬 (日本アイ・ピーエム (株) 未来価値創造事業 クラウドコンピューティング事業推進部長) |
| 11:40～12:30 | 招待講演 (3) 「Cloud ComputingとData Service」 丸山不二夫 (早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 客員教授) |

第2セッション：パネルセッション [13:30～15:30]

| | |
|-------------|--|
| 13:30～15:30 | パネル討論「クラウドで何が変わるか？」 司 会：佐々木俊尚 (ITジャーナリスト) パネリスト：城田真琴 ((株)野村総合研究所 情報技術本部技術調査部 主任研究員) 竹洞陽一郎 (アカマイ (株) プロフェッショナル・サービス部 テクニカル・プロジェクト・マネージャー) 丸山不二夫 (早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 客員教授) 松山憲和 (PFUソフトウェア (株) 第三ソフトウェア開発部 プロジェクト部長) 三崎文敬 (日本アイ・ピーエム (株) 未来価値創造事業 クラウドコンピューティング事業推進部長) |
|-------------|--|

第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェアセッション [15:40～17:35]

| | |
|-------------|---|
| 15:40～16:35 | 招待講演 (1) 「はてなの挑戦」 近藤淳也 ((株) はてな 代表取締役) ※講演者 伊藤直也 ((株) はてな 執行役員 CTO) |
| 16:40～17:35 | 招待講演 (2) 「モバゲータウン開発秘話」 川崎修平 ((株) ディー・エヌ・エー 取締役) |

クロージング

| | |
|-------------|---|
| 17:35～17:40 | 徳田英幸 (情報処理学会 技術応用運営委員会委員長/慶應義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長) |
|-------------|---|

■ ITフォーラムセッション ■

[会場 3F 各会場]

午前のITフォーラム [10:30～12:30]

イノベティブ社会基盤フォーラム：異業種におけるイノベーション [会場 3F 301]

| | |
|-------------|---|
| 10:30～11:00 | 講演 (1) 「IT × 農業」 神成淳司 (慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師) |
| 11:00～11:20 | 講演 (2) 「IT × 医療」 許斐俊充 (日本ナショナルインスツルメンツ (株) プロダクト事業部 事業部長 (兼マーケティング部長)) 大林康二 (北里大学 大学院 医療系研究科 応用物理学：ビデオ出演) |
| 11:20～12:30 | パネル討論「Live! IT × ○○」 司 会：許斐俊充 (日本ナショナルインスツルメンツ (株) プロダクト事業部 事業部長 (兼マーケティング部長)) パネリスト：小野和俊 ((株) アプレッソ 代表取締役副社長 CTO) 楠 正憲 (マイクロソフト (株) 技術統括室 CTO補佐) 斎藤健二 (アイティメディア (株) ビジネス・メディア事業部 執行役員 事業部長) 神成淳司 (慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師) 中嶋謙吾 (コミュニティーエンジン (株) 代表取締役 CEO) |

| | | |
|---|---|-------------|
| 福祉情報システムフォーラム：次世代要約筆記ツールの創造 ～ツールの連携から開発の連携へ～ | | [会場 3F 303] |
| 10:30～11:00 | 講演 (1) 「パソコン要約筆記ソフト IPtalk の今後の展開 ～日本遠隔コミュニケーション支援協会設立の経緯と FSG (Free Software Group) の構想～」 栗田茂明 (NPO 法人 日本遠隔コミュニケーション支援協会 理事長) | |
| 11:00～11:30 | 講演 (2) 「PSP 字幕から垣間見る情報保障の姿と今後」 森 直之 (要約筆記サークル「さくらんぼ」 (IPtalk Broadcaster 作者)) | |
| 11:30～12:00 | 講演 (3) 「手頃な講演字幕化ツール <i>Capitioner</i> の公開と IPtalk との今後の連携」 萩川友宏 (静岡大学 情報学部 教員) | |
| 12:00～12:30 | パネル討論「次世代の要約筆記ソフトに求められるもの」 司 会：坂根 裕 (デジタルセンセーション (株) 代表取締役) パネリスト：白澤麻弓 (筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授) 栗田茂明 (NPO 法人 日本遠隔コミュニケーション支援協会 理事長) 森 直之 (要約筆記サークル「さくらんぼ」 (IPtalk Broadcaster 作者)) 萩川友宏 (静岡大学 情報学部 教員) | |
| IT ダイバーシティフォーラム：ダイバーシティを促進するメンタリング活動 | | [会場 3F 311] |
| *IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group 共催 | | |
| 10:30～11:00 | 講演 (1) 「企業におけるメンタリングの意義」 清見純子 (リコーリース (株) 常務執行役員 人財エンパワーメント推進本部長兼カスタマーリレーション本部長) | |
| 11:00～12:00 | 講演 (2) 「個人のキャリアに合わせたメンタリングのポイント」 藤井佐和子 ((株) ソシオテック研究所 コンサルタント) | |
| 12:00～12:30 | 講演 (3) 「IT 企業における女性技術者へのメンタリング活動例」 菅原香代子 (日本アイ・ビー・エム (株) ソフトウェア事業 技術理事) | |
| IPA フォーラム：IT プロジェクトの「見える化」とトレーサビリティの確保、日本と世界 | | [会場 3F 312] |
| 10:30～11:20 | 講演 (1) 「SEC の提唱する IT プロジェクトの「見える化」、上流、中流、下流工程」 神谷芳樹 ((独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員) | |
| 11:20～11:40 | 講演 (2) 「IT プロジェクトの「見える化」、世界の動き」 神谷芳樹 ((独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員) | |
| 11:40～12:30 | 講演 (3) 「トレーサビリティを実現するソフトウェアタグ技術、日本から世界へ」 松本健一 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授) | |

午後の IT フォーラム [13:30～15:30]

| | | |
|---|--|-------------|
| ユーザスタディフォーラム：ビジネス・エスノグラフィの実践 | | [会場 3F 301] |
| 13:30～14:30 | 講演 (1) 「IT 業界におけるビジネスエスノグラフィの取組み ～インタビューを中心とした“聞く”ことから“知る”～」 矢鳥彩子 (富士通 (株) アシユアランス本部 ソーシャルサイエンスセンター 研究員) | |
| 14:30～15:30 | 講演 (2) 「ビジネスエスノグラフィによる生活者研究の実践」 井上紀子 (花王 (株) 生活者研究センター ビューティケア研究室 リサーチリーダー) | |
| サービスサイエンスフォーラム：顧客接点をイノベーションするサービスサイエンス | | [会場 3F 303] |
| 13:30～14:10 | 講演 (1) 「実例からみた顧客満足に対する顧客接点の重要性」 小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) CIO 兼 CRM 推進部長) | |
| 14:10～14:30 | 講演 (2) 「My サービスサイエンスの進捗報告」 諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員) | |
| 14:30～15:30 | パネル討論「顧客満足における顧客接点の重要性」 司 会：門倉純一 (CRM 協議会 専務理事) パネリスト：小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) CIO 兼 CRM 推進部長) 菊池 隆 (東京工業大学 経営工学系 21 世紀 COE 特任教授) 諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員) 竹林 一 (オムロンソフトウェア (株) 代表取締役社長) | |
| 高度 IT 人材育成フォーラム：高度 IT 人材のための資格制度構築に向けて | | [会場 3F 311] |
| 13:30～13:35 | 趣旨説明 掛下哲郎 (高度 IT 人材育成フォーラム代表 / 佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授) | |
| 13:35～13:55 | 講演 (1) 「IT 人材育成強化・加速プログラムについて」 奥家敏和 (経済産業省 商務情報政策局 情報政策ユニット 情報処理振興課 課長補佐) | |
| 13:55～14:15 | 講演 (2) 「高度 IT 人材の評価に関する IPA の取り組みと国際動向」 松田晃一 ((独) 情報処理推進機構 IT 人材育成本部 本部長) | |
| 14:15～14:35 | 講演 (3) 「高度 IT 人材資格制度の検討結果について」 旭 寛治 (情報処理学会 高度 IT 人材資格検討 WG 座長 / (株) 日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役社長) | |

| | |
|--|---|
| 14:35～15:30 | <p>パネル討論</p> <p>司 会：掛下哲郎（高度IT人材育成フォーラム代表／佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授）</p> <p>パネリスト：旭 寛治（情報処理学会 高度IT人材資格検討WG 座長／（株）日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役社長）</p> <p>上原 智（（株）NTTデータ 人事部 人財開発担当 課長）</p> <p>奥家敏和（経済産業省 商務情報政策局情報政策ユニット情報処理振興課 課長補佐）</p> <p>松田晃一（（独）情報処理推進機構 IT人材育成本部 本部長）</p> |
| Web 2.0 フォーラム：Web 2.0の将来：可能性と課題 | |
| | [会場3F 312] |
| 13:30～13:50 | <p>講演 (1) 「エンタープライズ・ソーシャル・アプリケーションの可能性」</p> <p>栗原 潔（（株）テックバイザージェイピー 代表取締役・弁理士／金沢工業大学 客員教授）</p> |
| 13:50～14:10 | <p>講演 (2) 「大企業におけるWeb2.0の活用状況」</p> <p>小林啓倫（（株）日立コンサルティング シニアコンサルタント）</p> |
| 14:10～14:30 | <p>講演 (3) 「Web2.0とソーシャルメディア」</p> <p>吉川日出行（みずほ情報総研（株）コンサルティング部 シニアマネジャー）</p> |
| 14:30～15:30 | <p>パネル討論</p> <p>司 会：栗原 潔（（株）テックバイザージェイピー 代表取締役・弁理士／金沢工業大学 客員教授）</p> <p>パネリスト：小林啓倫（（株）日立コンサルティング シニアコンサルタント）</p> <p>吉川日出行（みずほ情報総研（株）コンサルティング部 シニアマネジャー）</p> |

ソフトウェアジャパン2009

ITのパラダイムシフト～クラウドで何が変わるか？～

情報処理学会ではITプロフェッショナル(実務家)のためのシンポジウムとして、2004年度から毎年度「ソフトウェアジャパン」を開催し、多数の企業・大学等からのご支援をいただいております。

本年度は、「ITのパラダイムシフト～クラウドで何が変わるか?～」と題しまして、さまざまなハードウェア、データ、処理などネットワークの向こう側に移動した環境を意味する「クラウド」に焦点をあて、最近の動向や、企業における取り組み、クラウドによって何が変わるのか、などについて考えてまいりたいと思います。また、日本発の世界に誇るソフトウェアの研究者・開発者・技術者による講演「ザ・ジャパンソフトウェアセッション」ならびに実務家向けのコミュニティとして当会で活動をしているITフォーラムによる「ITフォーラムセッション」も開催いたします。

IT関連業界において現場で活躍されている産業界の方々を中心に、学界・官公庁関係の方々、次世代を担う若手の技術者・研究者の方々等、社会の多くの方々とともに問題意識を共有し議論、交流を深められる場となれば幸いです。

社団法人 情報処理学会

■ 全体セッション ■

[会場 4F ホール]

4

オープニング／ITフォーラムの紹介 [9:30～9:35]

ITフォーラムのイントロダクション [9:30～9:35]



徳田英幸(情報処理学会 技術応用運営委員会委員長/慶應義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長)

【略歴】1975年慶應義塾大学工学部卒業。同大学院工学研究科修士。ウォータールー大学計算機科学科博士(Ph.D. in Computer Science)。1983年米国カーネギーメロン大学計算機科学科に勤務。研究准教授を経て、1990年より、慶應義塾大学環境情報学部勤務。慶應義塾常任理事(1997～2001年)を経て、現職。主に、オペレーティングシステム、分散システム、ユビキタスコンピューティングシステムに関する研究に従事。現在、情報処理学会ユビキタスコンピューティングシステム研究会顧問、ネットワークロボットフォーラム会長、ユビキタスネットワークフォーラム技術部会長&電子タグ高度活用部会長、総務省ユビキタスネット社会の実現に向けた基本政策WG副委員長。研究教育業績に関して Motorola Foundation Award, IBM Faculty Award, 経済産業大臣賞、総務大臣賞などを受賞。

第1セッション：キーノートセッション [9:35～12:30]

招待講演(1)：クラウド・コンピューティング時代の到来 [9:35～10:25]

【講演概要】メインフレーム、クライアント/サーバシステム、Webコンピューティングに次ぐ、次世代コンピューティングモデルの本命として、クラウド・コンピューティングが脚光を浴びている。クラウド・コンピューティング時代の到来は、企業の情報システム戦略に大きな影響を及ぼすと同時に、ハードウェアメーカ、ソフトウェアベンダ、システム・インテグレータの既存ビジネスを破壊する可能性も示している。本セッションでは、クラウド・コンピューティングの最新動向を紹介するとともに、クラウド・コンピューティングがもたらす変化を多方面から分析し、ユーザ、ベンダが今とるべきアクションを提言する。



城田真琴((株)野村総合研究所 情報技術本部技術調査部 主任研究員)

【略歴】北海道大学工学部電子工学科卒業後、大手メーカのシステムコンサルティング部門を経て、2001年野村総合研究所に入社。現在、ITアナリストとして、先端技術の動向とベンダ戦略の調査・分析、ユーザ企業のIT利用動向調査とそれらを基にしたさまざまな提言を行っている。専門は、SOA、オープンソース、SaaSなど。著書に「SaaSで激変するソフトウェア・ビジネス」(毎日コミュニケーションズ社)、「ITロードマップ2009年版」(東洋経済新報社)などがある。近刊予定「クラウドの衝撃」(東洋経済新報社)。講演、寄稿多数。

招待講演 (2) : 企業 IT システムにおけるクラウドコンピューティング [10:40~11:30]

【講演概要】クラウドコンピューティングは、ITの新しい提供形態として期待されている。企業ITシステムにおいて、現状の課題からクラウドコンピューティングが期待されている背景を紹介し、今後の活用分野や利用形態の可能性とそのチャレンジを考察する。この講演では、それらに対する取り組みについて、IBM社内の事例なども交えて議論する。



三崎文敬 (日本アイ・ビー・エム (株) 未来価値創造事業 クラウドコンピューティング事業推進部長)

【略歴】神戸大学大学院工学研究科修士課程修了後、日本アイ・ビー・エム入社。大和研究所にて製品開発担当や製品企画担当などを経て、IBMコーポレーションの技術戦略部門スタッフ。2001年以降はLinux, Grid, Virtualization, Autonomic ComputingといったEBO (Emerging Business Opportunity) のビジネス・インキュベーションに従事し、2009年1月より現職。

招待講演 (3) : Cloud Computing と Data Service [11:40~12:30]

【講演概要】Cloud Computingの起源といくつかの形態についてふれ、現在、Cloudの提供する中核的なサービスになろうとしているData Serviceを紹介する。あわせて、これらのサービスの一般化が、どのようなパラダイム・シフトをもたらすかを考える。



丸山不二夫 (早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 客員教授)

【略歴】一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。1987年から稚内に、2000年から2007年まで稚内北星学園大学学長。2008年から現職。2008年から、Cloud研究会代表。

第2セッション : パネルセッション [13:30~15:30]

パネル討論 : クラウドで何が変わるか? [13:30~15:30]

【討論概要】クラウドの出現は、ソフトウェア業界に大きなインパクトを与え、旧来のパラダイムを一新しようとしている。ハードウェアからOS、ソフトウェアへと移り変わってきたITのプラットフォームは、今後クラウドへと移り変わっていく可能性が高い。このパラダイム転換によって、IT業界はどう変わるのか。その変化は産業界全体にどのような影響を与え、ひいては人々の行動や生活、思考にいったいどのような変化をもたらすことになるのか。その変化の可能性を、IT業界最先端の現場で活躍するパネリストたちが探る。



司会 : 佐々木俊尚 (ITジャーナリスト)

【略歴】1961年兵庫県西脇市生まれ。愛知県立岡崎高校卒、早稲田大政経学部政治学科中退。1988年毎日新聞社入社。岐阜支局、中部報道部(名古屋)を経て、東京本社社会部、警視庁捜査一課、遊軍などを担当し、殺人や誘拐、海外テロ、オウム真理教事件などの取材に当たる。1999年アスキーに移籍し、月刊アスキー編集部デスク。2003年退職し、フリージャーナリストとして主にIT分野を取材している。

パネリスト : 城田真琴 ((株)野村総合研究所 情報技術本部技術調査部 主任研究員)

写真、略歴は、キーノートセッション 招待講演 (1) を参照。



パネリスト : 竹洞陽一郎 (アカマイ (株) プロフェッショナル・サービス部 テクニカル・プロジェクト・マネージャー)

【略歴】1968年青森県八戸市生まれ、青森県立八戸北高校卒、日本大学法学部政治経済学科卒。日本のITベンダでSE、プロジェクトマネージャーとしてシステム構築に携わる一方、「逆襲のSlackware」というLinuxの古くからのディストリビューションのSlackwareについてのサイトを立ち上げ技術発信を行う。2003年VMware入社、仮想化技術の教育をProfessional Serviceとして提供。2006年アカマイ(株)入社、Professional Serviceでアカマイの配信設定とコンサルティングサービスに従事。オンラインゲームとRMT、Cloud Computingについて研究。2008年11月EdgeComputing Allianceの立ち上げを行う。

パネリスト : 丸山不二夫 (早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 客員教授)

写真、略歴は、キーノートセッション 招待講演 (3) を参照。



パネリスト：松山憲和 (PFUソフトウェア (株)第三ソフトウェア開発部 プロジェクト部長)

【略歴】1988年(株)PFUに入社し、ソフトウェア開発環境の整備、データベース関連関連ツール、文書管理製品の開発に従事。その後、分散コンピューティングやモバイル・エージェントの調査・研究を行う中でXML技術、特にWebサービス関連技術の重要性からXMLコンソーシアムに参加。XMLコンソーシアムWebサービス実証部会のリーダーとしてWebサービスに関する先進的な実証実験を多数実施。現在はWebOSとクラウド・コンピューティングに関する研究開発に従事。

パネリスト：三崎文敬 (日本アイ・ビー・エム (株)未来価値創造事業 クラウドコンピューティング事業推進部長)

写真、略歴は、キーノートセッション 招待講演 (2) を参照。

第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェアセッション [15:40～17:35]

招待講演 (1)：はてなの挑戦 [15:40～16:35]

【講演概要】ブログサービスのさきがけとなった「はてなダイアリー」、国内最大規模を誇るソーシャルブックマークサービス「はてなブックマーク」、シンプルかつ高性能のWebアルバム「はてなフォトライフ」などの多彩なWebサービスを提供する(株)はてなは、国内トップクラスのエンジニア主体の組織で、高度な技術とユーザに支持される独自性・新規性の高いサービスの創造と開発に取り組んでいる。2001年の創業から7年目の今年、京都に拠点を移し、「A Place for Fun & Creativity」をモットーに「ものづくり」の新体制を敷きながら、高い技術力とサービス開発力でさらなるサービスの拡大に挑む。この講演では、創業以来のこれまでのはてなの軌跡と、今後の展望について紹介する。



近藤淳也 ((株)はてな 代表取締役) ※講演者

【略歴】(株)はてな 代表取締役。1975年三重県生まれ。京都大学大学院理学研究科中退後、プロカメラマンを経て、2001年7月に京都で「(有)はてな」を創業。2004年に株式会社化、東京移転。2006年に米国シリコンバレーにて子会社「Hatena Inc.」を設立し活動。2008年に帰国し、本社を東京から京都へ移転して「ものづくり」の本拠地とする。



伊藤直也 ((株)はてな 執行役員CTO)

【略歴】(株)はてな 執行役員/最高技術責任者 (CTO)。1977年宮城県生まれ。青山学院大学大学院理工学研究科博士課程前期修了。ニフティ (株)を経て、2004年9月(株)はてな入社。著書に「[24時間365日]サーバ/インフラを支える技術～スケラビリティ、ハイパフォーマンス、省力運用」(技術評論社)など。

招待講演 (2)：モバゲータウン開発秘話 [16:40～17:35]

【講演概要】2006年2月に開始したケータイ総合ポータルサイト「モバゲータウン」は、サービス開始以降、ユーザの口コミによる爆発的な広まりで、会員数1,100万人・1日最大5億PVを超える規模にまで成長した。プロジェクトの立ち上げはごく少数のメンバで行われ、初期のシステム開発は1名で行われたため、少人数で素早くサービスの開発を行いつつ、安定したシステム運用が可能となる構成が重要であった。本講演では、企画開始からサービス開始までのエピソードや、サービス開始直後からの急激なトラフィック増加への対応方法、そしてこれまで3年弱の運営におけるさまざまな状況の変化とその対処について述べる。また、システム全体の基本構成について解説し、変化し続けるサービスへの要求に対して柔軟に対応するための設計思想について述べる。



川崎修平 ((株)ディー・エヌ・エー 取締役)

【略歴】東京大学大学院博士課程在学中の2002年1月、システムエンジニアとして(株)ディー・エヌ・エーに入社。2004年大学院単位取得退学後、同年4月より正社員となる。2007年6月取締役に就任 (現任)。

クロージング [17:35～17:40]

午前の IT フォーラム [10:30 ~ 12:30]

イノベティブ社会基盤フォーラム
「異業種におけるイノベーション」 [会場 3F 301]

【セッション概要】イノベーションはしばしば新結合と訳される。IT技術自体の進歩もさることながら、最新のIT技術を異業種で活かしてこそ、新しい産業や生態系が生まれるのではないか。イノベティブ社会基盤フォーラムではこのような問題意識に基づき、医療、農業などさまざまな分野で起こっているIT技術を活用したイノベーションに注目し、新たな可能性について検討する。単にITを使った自動化・業務効率化の枠を超えて、ITを使ってこそ可能となるイノベティブな製品やサービスを生み出すために何が必要か、実際の具体例を基に会場とネットの同時進行で議論を深めたい。



司会（コーディネータ）：楠 正憲（マイクロソフト（株）技術統括室 CTO補佐）

【略歴】1977年生まれ。2001年神奈川大学経済学部卒業。1996年からITライター、コンサルタントなどとして活動。1998年（株）インターネット総合研究所入社。通信事業者向けコンサルティング、インターネットエクステンションの運用監視、ECサイト、電子決済ASP等の設計構築などに従事する傍ら、Linuxディストリビューションの開発やモバイルコンテンツベンチャーの立ち上げに関与。2002年マイクロソフト入社。Windows Server 製品部Product Manager、政策企画本部技術戦略部長などを経て2006年5月より現職。

講演（1）：IT × 農業 [10:30 ~ 11:00]

【講演概要】多くのメディアで取り上げられているように、国内農業が危機的状況である。世帯あたりの平均所得は国内水準を下回り、高齢化と後継者不足も深刻である。結果として、日本の食糧自給率はエネルギーベースで40%前後と低調で回復の見込みもない。2050年の世界人口は95億超となり（国連予測）、全世界的な食糧危機が懸念されており、国内への食料輸入は、ほぼ不可能と考えられる。また、たびたび繰り返される食品偽装・汚染問題は、我々の生活を支える食の基盤の危うさを改めて示している。我々、そして次の世代が安定的な安心できる生活を営むためにも、世界有数の生産性を誇る日本の国内農業再生が必要である。ITがもたらす農業分野におけるイノベーションについて、慶應大学において取り組まれている事例を中心に言及する。



神成淳司（慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師）

【略歴】1971年生まれ。1996年慶應義塾大学政策・メディア研究科修士課程修了。2003年岐阜大学工学研究科博士課程修了。博士（工学）。1996年より国際情報科学芸術アカデミーに着任。助手、講師を経て、2007年より慶應義塾大学環境情報学部に着任。現在に至る。この間、岐阜県情報技術顧問（2000～2005年）、（財）ソフピアジャパン主任研究員（2000～2005年）、京都大学大学院非常勤講師（2006～）等を兼務。また、2008年より経済産業省産業構造審議会（情報経済分科会）委員を務める。人工知能学会社会におけるAI研究会主査、日本VR学会論文誌編集委員、Microsoft MVP AWARD受賞（2004～2008）。

講演（2）：IT × 医療 [11:00 ~ 11:20]

【講演概要】北里大学の大林教授が研究に取り組むOCTとはOptical Coherence Tomographyの略で、日本語では光干渉断層撮影技術と呼ばれる。これは組織を採取することなく病理検査を可能とする技術であるため、肺がんの早期発見などに貢献すると期待されている。各国で研究が進む技術ではあるが、大林教授のシステムは競合機の1,000倍ものパフォーマンスを誇る。2008年の米ナショナルインスツルメンツの開催したGraphical System Design Awardで最優秀賞を受賞したこのシステムは、通信技術であるDWDM（高密度波長多重分割通信）に着想を得て、同時に複数の周波数の光を照射する原理で動作するのが特徴だ。物理学の専門家が医療機器の研究に通信技術を応用することで、世界最速の超高速光コムOCT装置を実現した。これは分野をまたぐ要素技術の絶妙な組合せがイノベーションの源泉となっている象徴的な事例であり、大林教授にその発想の源泉を伺う。



許斐俊充（日本ナショナルインスツルメンツ（株）プロダクト事業部 事業部長（兼マーケティング部長））

【略歴】1998年東京大学理学部物理学科卒。同年、日本ヒューレット・パッカード（株）（現在のアジレント・テクノロジー社の前身部門）にR&Dハードウェアエンジニアとして入社し半導体計測器の開発に従事する。1999年同社のHPコンサルティング事業部に異動、大手無線キャリアのインターネットインフラ構築プロジェクトにリーダーとして従事。P2Pに関心を持ち、業界研究会等で講演を行う。2000年の夏、Jnutella.orgの立ち上げに参加。2003年カリフォルニア大学バークレー校ハース経営大学院を卒業し、現在ナショナルインスツルメンツ（株）でプロダクト事業部事業部長（兼マーケティング部長）として従事。

大林康二（北里大学 大学院 医療系研究科応用物理学：ビデオ出演）

パネル討論：Live! IT × ○○ [11:20～12:30]

【討論概要】ここまでの講演では、ITがITの枠を超えて異業種や異分野のアプリケーション、要素技術と組み合わせることで新たな付加価値を創出する事例を紹介してきた。パネルディスカッションでは将来に目を向け、ITが今後どのような異業界でイノベーションを起こしうるか、Live! IT × ○○と題してイノベティブ社会基盤フォーラムのメンバが討論する。このセッションはネット中継を行い、外部の有識者、会場の参加者などの意見をライブで取り入れて進行するため、ダイナミックな討論になる予定である。

司会：許斐俊充（日本ナショナルインスツルメンツ（株）プロダクト事業部 事業部長（兼マーケティング部長））

写真、略歴は、講演（2）を参照。



パネリスト：小野和俊（（株）アプレッソ 代表取締役副社長 CTO）

【略歴】1976年生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、サン・マイクロシステムズ（株）に入社。Sun Microsystems, Inc（US本社）でのJavaアプリケーションTahoeの開発を経て、2000年より（株）アプレッソ代表取締役に就任、データ連携ミドルウェア「DataSpider」を開発する。2002年にはDataSpiderがSOFTICソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞。2004年度未踏ソフトウェア創造事業Galapagosプロジェクト共同開発者。

パネリスト：楠 正憲（マイクロソフト（株）技術統括室 CTO 補佐）

写真、略歴は、司会（コーディネータ）を参照。



パネリスト：斎藤健二（アイティメディア（株）ビジネス・メディア事業部 執行役員 事業部長）

【略歴】1973年生まれ。上智大学卒。PC専門誌編集を経て、2000年よりアイティメディアにてインターネットニュースメディアの編集、サイト立ち上げ、サービス開発に携わる。2001年、+D Mobileをスタート（2004年1月より同誌編集長）。2006年にはビジネスパーソンに向けた仕事術提供サイトITmedia Biz.IDを立ち上げ、現在、同誌編集長を務める。

パネリスト：神成淳司（慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師）

写真、略歴は、講演（1）を参照。



パネリスト：中嶋謙吾（コミュニティーエンジン（株）代表取締役 CEO）

【略歴】1996年Java Appletを使用した日本初のMMORPG「Lifestorm」を開発（日本システムサプライ）。2001年京都大学農学部農林経済学科卒業。2001年MMOG開発用ミドルウェアVCEを発表（コミュニティーエンジン）。2003年稀億ネットワーク（北京）有限公司設立法定代表者、董事長に就任。2004年オンライン環境シミュレーター「gumonji」を発表（コミュニティーエンジン）。2004～2005年情報処理推進機構の未踏ソフトウェア創造事業にて「XM会議支援ソフトウェア」の開発が2年連続採択。2006年事業化予定。

福祉情報システムフォーラム 「次世代要約筆記ツールの創造 ～ツールの連携から開発の連携へ～」 [会場 3F 303]

【福祉情報システムフォーラムの情報保障について】

本セッションでは、字幕の携帯ゲーム機PlayStation Portable（PSP-1000、2000、3000のいずれにも対応しています）への配信も体験いただけます。お試しになりたい方は、PSPをご持参ください（満充電の状態ですら3～4時間の表示が可能です）。

【セッション概要】要約筆記ソフトIPTalk開発者の栗田氏の呼びかけにより、IPTalk連携ソフトの開発者を中心として、次世代の要約筆記ソフトの開発のために人々が結集しつつある。このセッションでは、ツールの連携から開発の連携へと発展しつつある情報保障ソフトの現状と将来について、会場の参加者を交えて展望したい。IPTalk Broadcasterは、要約筆記ソフトウェアIPTalkの字幕を、PSP（PlayStation Portable）で受信し表示できるようにする画期的なIPTalk連携ソフトウェアである。我々情報技術者が真っ先に利用するPCでもPDAでもなく、なんとPSPという手頃さが受け、急速に浸透しつつある。開発者の森氏から、着想から完成に至るまでの経過を交えてご紹介いただく。一方で、学会や講演会の手頃な情報保障を目的として昨年大風呂敷を広げたCaptionerは、情報処理学会発のツールとしてプロタイプが一般公開できる段階になった。会場では、スライドノートをもとにした字幕を自在に編集し、IPTalkで入力した即興発言を交えて表示する実演を行う。栗田氏からは、IPTalkの最近の動向についてご講演いただくとともに、日本遠隔コミュニケーション支援協会の設立やFSG（Free Software Group）の構想についてもご紹介いただく予定である。



司会（コーディネータ）：坂根 裕（デジタルセンセーション（株）代表取締役）

【略歴】1974年大阪府生まれ。1998年大阪大学工学部卒業。2000年大阪大学大学院工学研究科修士課程修了。2002年静岡大学情報学部助手。2004年デジタルセンセーション（株）代表取締役社長兼任。コンテンツ配信、スポーツ情報学に関する研究・開発に従事。

講演 (1) : パソコン要約筆記ソフト IPtalk の今後の展開 ~日本遠隔コミュニケーション支援協会設立の経緯と FSG (Free Software Group) の構想~ [10 : 30 ~ 11 : 00]

【講演概要】 準聴覚障害者に対する情報保障の1つである「パソコン要約筆記」「PCテイク」は、近年、情報保障としての市民権を得、全国各地で行われるようになりましたが、入力者の不足がさらなる普及を妨げていると考えます。この対策の1つとして、2005年からインターネットを利用した「在宅入力情報保障」を検討し実験を行ってきましたが、2008年その運営団体としてNPO法人を設立しました。昨年のソフトウェアジャパンで説明した計画のその後と日本遠隔コミュニケーション支援協会の設立やFSG (Free Software Group) の構想についてお話ししたいと思います。また、2008年に開発されて、現在全国の大学の「PCテイク」で利用されている、入力文を流用してノートを取る「PCテイク用ノート」機能についても説明したいと思います。



栗田茂明 (NPO 法人 日本遠隔コミュニケーション支援協会 理事長)

【略歴】 1998年の第34回全国身体障害者スポーツ大会「かながわ・ゆめ大会」のパソコン要約筆記ボランティアを中心にパソコン要約筆記サークル「ラルゴ」を設立し、会長となる。1999年「ラルゴ」の練習用ソフトとしてIPtalkを作成。2000年全難聴主催の第2回全国パソコン要約筆記指導者養成講座で説明したことがきっかけとなり全国でIPtalkが使われるようになる。その後、全国から寄せられる機能追加の要望でバージョンアップを続けた。2008年IPtalkの継続的な開発と在宅入力情報保障の普及のためなどからNPO法人を設立した。2002年(財)日本ITU協会から日本ITU協会賞ユニバーサルアクセシビリティ賞を受賞。2005年(財)青島会からヘレン・ケラー賞(障害者教育研究・実践補助賞)を受賞。2008年NPO法人日本遠隔コミュニケーション支援協会を設立し理事長となる。

講演 (2) : PSP 字幕から垣間見る情報保障の姿と今後 [11 : 00 ~ 11 : 30]

【講演概要】 「パソコン要約筆記」は、全国に広がり、福祉制度としても徐々に浸透しつつあります。しかし、パソコン要約筆記の環境は特定のOSやアプリケーションの仕組みに依存しており、応用や連携が難しい傾向にあります。今回、汎用的な形式(HTML)に変換するプログラムIPtalk Broadcasterを取り上げ、仕組みや課題についてお話しします。



森 直之 (要約筆記サークル「さくらんぼ」(IPtalk Broadcaster 作者))

【略歴】 2003年全国身体障害者スポーツ大会「わかふじ大会」をきっかけに、2006年頃からIPtalk Broadcasterを開発。2008年(特非)全国要約筆記問題研究会 機械入力委員として活動中。現在は、「要約筆記活動の準備から反省まで」を一通り行えるツールチェーンの拡充を目指し、要約筆記通訳活動とともにソフト開発をしている。

講演 (3) : 手頃な講演字幕化ツール Captioner の公開と IPtalk との今後の連携 [11 : 30 ~ 12 : 00]

【講演概要】 聴覚に障害のある聴講者に講演内容を字幕で伝える要約筆記は、リアルタイム性が要求されることから、複数人(4名程度)で交互に分担入力するのが一般的です。このため、要約記者の手配やコストの制約で実施できる場に限られ、広く継続的にはなかなか実施できていないのが現状です。私たちは、PowerPointと連携することにより、補助者1名のみでリアルタイムに字幕を提示できるシステムを開発してきており、今回の発表に合わせてそれを公開・実演します。訓練された4名の要約記者をその場の補助者1名で代替するわけですから、それなりの制約は存在します。この制約をいかに緩和し、手頃なリアルタイム字幕提示環境をどれだけ改善できるか、そのためにはどのようなソフトウェアの連携が必要になるのかつきつめます。



萩川友宏 (静岡大学 情報学部 教員)

【略歴】 筑波大学自然学類卒業。学部在学中に福祉機器に関心を持ち、情報学部生に紛れてハードウェアやアルゴリズムを学ぶ。大学院より情報分野に転身。2000年同大学院工学研究科修了。同年静岡大学情報学部助手として着任し、情報家電の研究に着手。現在の興味は、手頃な情報保障のためのモデル作りとアクセシビリティ向上のための機器連携フレームワーク。当会福祉情報システムフォーラム世話人、映メ学会コンシューマエレクトロニクス研究会幹事。IEEE CE Japan Chapter 若手論文賞('00, '00, '01, '01, '03), IEEE Intl. Conf. on Consumer Elec. Outstanding Paper Award ('05 Poster)。

パネル討論 : 次世代の要約筆記ソフトに求められるもの [12 : 00 ~ 12 : 30]

【討論概要】

- ツールの連携から開発の連携へ
 - それぞれの開発者の連携構想は? 実務者が期待する連携機能は?
 - それらを可能にするための連携基盤は?
 - 企業や研究者の参入を促進できるオープン開発のスタイルは?
- 運用の現場と実務者の連携
 - 現場ごとの運用事情は?(大学, 学会, 企業内情報保障)
 - 実務者と開発グループの連携は?
 - グループ開発に期待すること

司会：坂根 裕（デジタルセンセーション（株）代表取締役）

写真、略歴は、司会（コーディネータ）を参照。



パネリスト：白澤麻弓（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授）

【略歴】大学時代に聴覚障害学生と出会ったことがきっかけで高等教育機関における聴覚障害学生への支援体制構築に関する研究ならびに実践にかかわりはじめる。2004年筑波技術短期大学障害者高等教育研究センター（現：筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）に赴任。同年日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）設立。現在、事務局長、博士（心身障害学）、手話通訳士。

パネリスト：栗田茂明（NPO法人日本遠隔コミュニケーション支援協会 理事長）

写真、略歴は、講演（1）を参照。

パネリスト：森 直之（要約筆記サークル「さくらんぼ」（IPTalk Broadcaster 作者））

写真、略歴は、講演（2）を参照。

パネリスト：嵯川友宏（静岡大学 情報学部 教員）

写真、略歴は、講演（3）を参照。

IT ダイバーシティフォーラム 「ダイバーシティを促進するメンタリング活動」 [会場 3F 311] *IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group 共催

【セッション概要】少子高齢化、ワーキングスタイルの多様化、グローバル化など、企業を取り巻く環境は日々ダイナミックに変化しており、ダイバーシティ推進はきわめて重要な組織変革のテーマとなっている。ダイバーシティ推進の施策の1つとして「メンタリング活動」がある。メンタリング活動とは、メンターと呼ばれる助言者が社員（メンティー）のキャリアに関するアドバイスをし、社員自らが能力を発揮し、キャリアデザインを描けるよう支援を行うフレームワークである。このフレームワークを整備し、企業の壁を超えたメンターネットワークの構築、事例の蓄積などを行っていくことが、企業の持続的な価値創出に大きく寄与すると考える。本セッションでは、企業のメンタリング活動推進者によるメンタリングの意義、推進にあたっての課題などの講演をいただくとともに、メンタリング活動の識者からダイバーシティを踏まえたキャリア開発と、それを実現するメンタリング活動の具体的なキーポイントなどを紹介いただく。



司会（コーディネータ）：土井美和子（（株）東芝 研究開発センター 首席技監）

【略歴】1979年東京大学工学系修士課程修了。同年現在の（株）東芝研究開発センター入所。「ヒューマンインタフェース」を専門分野とし、日本語ワープロ、機械翻訳、道案内サービス、ネットワークロボットの研究開発に従事。現在、日本学会会議連携会員、総務省情報通信審議会委員、文部科学省大学設置・学校法人審議会委員、情報処理学会副会長などを務める。博士（工学）。

講演（1）：企業におけるメンタリングの意義 [10:30～11:00]

【講演概要】企業をとりまく環境が激しく変動をする中で、方法論は別にしても「新しい価値の創出」と「生産性の向上」だけは常に経営の中心となる。そういう環境の中、社員が力量を存分に発揮しやすいような組織になっているかと中身をチェックすると、今までと見られなかった不安や迷いを持っている。つまり経営環境だけでなく、価値や生産性を創り出す側である社員も大きく変化しているのである。たとえば女性社員で捉えれば、本当は子供がいるからといって周囲に気を使われたくない、という方もいるし、勤務はしたいが新しい役割は担いたくない価値観の方もいる。キャリアの途中で迷いが出ることもある。女性就業の実態は、継続勤務年数や平均年齢だけではもう何も把握できない。こういった社員の力量を最大限に引き出す重要なフレーム制度施策の1つに「メンタリング」があり、この運用は不可欠のものとなりつつある。



清見純子（リコーリース（株）常務執行役員 人財エンパワーメント推進本部長兼カスタマーリレーション本部長）

【略歴】1979年東洋大学社会学部卒業。厚生労働系団体で統計業務従事後、コンサルタント会社に勤務。20年間のコンサルタント業の前半はさまざまなサービス業の開業や開発系のコンサルタントを行い、後半10年はカウンセリングをベースとしたコミュニケーションを核とした目標管理制度の定着に専念した活動を行う。2002年リコーリース（株）に入社。業務組織改革および採用育成業務を担当している。

講演 (2) : 個人のキャリアに合わせたメンタリングのポイント [11:00~12:00]

【講演概要】 今後、ソフトウェア業界をはじめ、さまざまな組織の課題として、女性の活用が挙げられている。男女が共同参画することで、日本経済を支えるためにも必要な施策であると同時に、仕事に対する意欲の高い女性が増えているのも事実である。しかしながら、現在の社会は、女性にとって、管理職で活躍している女性の前例も少なく、また、選択肢も多いため、何を選べばよいのか、迷うところも見逃せない。そんな彼女たちの活躍を促すためにも、今、まさにメンターの存在が必要不可欠となっている。メンターの役割は、メンティが、選択に迷っているとき、状況を客観的な視点で交通整理し、前進できるよう、応援、サポートする役割を担う。そのためには、まずはメンティに合わせた対応、傾聴力、意思の尊重などが必要となってくる。本講演では、メンターにとって必要なスキルと、サポートする女性の現状や特性、男性との違いなどについて講演する。



藤井佐和子 ((株)ソシオテック研究所 コンサルタント)

【略歴】 1990年明星大学人文学部英語英文学科卒業。1990年ペンタックス(株)に入社、海外営業部にて事務職に従事。1994年(株)インテリジェンスに勤務。派遣事業部、キャリアコンサルティングセンターを経て、人材紹介事業部の転職サポートチームのリーダーとなる。2002年キャリアコンサルタントとして独立。ウーマンズキャリアプロモーション事務局主宰。2007年より(株)ソシオテック研究所。研究テーマはキャリアプランの形成における本質的な働き方。活動領域は階層別研修(新入社員、マネジャー、女性社員)、テーマ別研修(コミュニケーション、キャリア、接客マナー)、その他(大学生のための就職実践講座、大学生のためのキャリア形成講座)、資格(社)JCDA認定 CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)、EQ ジャパン公認プロファイラー。著書「履歴書・職務経歴書の書き方」、「朝、会社にいく自分養成講座」、「*働く女性のハッピー法則*伝え上手で、キャリアアップ!」。その他女性のカウンセリング実績1200人以上。

講演 (3) : IT 企業における女性技術者へのメンタリング活動例 [12:00~12:30]

【講演概要】 日本IBMは2005年に女性技術者支援のためのコミュニティ "COSMOS" を発足させたが、そこでの議論から、女性技術者のキャリア・アップの阻害要因として①ロール・モデルがない、②仕事と家事・育児とのバランスが難しい、③ネットワークがない、という点が挙げられた。そこで、これらの課題を克服するためにいろいろな施策を実行してきたが、その中でも特にメンタリング活動に力をいれている。技術革新のスピードが非常に速いIT業界では育児休業中や子育て中の女性にとって新しい技術を取得するのはかなりのプレッシャーである。また技術職ならではの論文の書き方やコンファレンスでの発表方法、プロジェクト・マネージャー職などの長時間勤務の悩み、また長期的な将来に対するキャリアの悩みなど、いろいろなことを相談できる人(メンター)を身近に見つけることを積極的に勧めている。当セッションでは、弊社でのいろいろなメンタリングの施策をご紹介します。



菅原香代子 (日本アイ・ビー・エム (株)ソフトウェア事業 技術理事)

【略歴】 1981年お茶の水女子大学理学部物理学専攻修士課程卒。日本IBM入社後、スーパーコンピュータの研究、MVSやAIXのエンジニアとしてお客様の技術支援を担当。1993年よりリレーショナル・データベースDB2に関する技術支援を行う。最近ではデータベースやXMLに関する書籍や技術資料の執筆、外部セミナーの講師など活動を広げている。また2005年より日本IBMの社内女性技術者コミュニティ "COSMOS" のリーダーを務めている。

IPA フォーラム

IT プロジェクトの「見える化」とトレーサビリティの確保、日本と世界 [会場 3F 312]

【セッション概要】 クラウドの時代、ソフトウェアの可用性が高まる分だけ、ソフトウェアの信頼性、そして生産性は今までにも増して求められるようになります。IPAセッションではソフトウェアプロジェクトの「可視化」に焦点を合わせ、IPA/SECが提唱しているITプロジェクトの「見える化」施策、その全貌をご紹介します。元来自然のままでは見えにくいソフトウェアプロジェクトを可視化することによって、他の製造業などと同様に、生産性や品質の向上に役立てようとする施策である。あわせて、最近顕在化してきたこの「見える化」施策の海外の動向を紹介する。さらに近年この「見える化」に新たに加わったターゲット、「追跡性と説明性」を確保するための「ソフトウェアタグ」の研究について、最先端を研究するStagEプロジェクトのリーダーから、その日本発の最新動向をご紹介します。



司会(コーディネータ): 神谷芳樹 ((独)情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)

【略歴】 電電公社/NTTの研究所、NTTソフトウェア(株)等を経て、2003年4月奈良先端科学技術大学院大学研究員、文部科学省委託によるソフトウェア工学に関する産学連携のEASE(Empirical Approach to Software Engineering)プロジェクトに従事。2004年10月、IPAソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)発足と同時に研究員を兼務。SEC先進プロジェクト、ITプロジェクト見える化部会等の活動に従事。ソフトウェア工学研究における産学連携を推進。博士(工学)。

講演 (1) : SEC の提唱する IT プロジェクトの「見える化」, 上流, 中流, 下流工程 [10:30~11:20]

【講演概要】 IPA/SECが3年間、斯界で豊富な経験を重ねてきた延べ30人余の叡智をつぎ込んで4冊の書籍とツール群にまとめ上げた「ITプロジェクトの見える化」手法の全貌を紹介する。書籍として形式知化された手法は定性的アプローチ、定量的アプローチ、統合的アプローチから構成され、その約50%がノウハウ満載のチェックシートや失敗事例集などのデータ類で構成されている。またEPM (Empirical Project Monitor) と呼ぶ無償提供のプロジェクト計測ツールやダウンロード可能なデータとツール群を含んでいる。これらを、その最近の適用事例を含めて示す。

神谷芳樹 (独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)

写真, 略歴は, 司会 (コーディネータ) を参照。

講演 (2) : IT プロジェクトの「見える化」, 世界の動き [11:20~11:40]

【講演概要】 進行中のソフトウェアプロジェクトの可視化, すなわち「ソフトウェア・プロジェクトのインプロセス計測とフィードバック」というテーマは世界のあちこちで取り組まれるようになり, いくつかの目覚ましい成果が現れはじめた。本講演ではそのうち, ドイツ, イタリア, 米国発の特徴あるシステムとサービスを紹介し, あわせて日本のシステムEPMの今をお伝えする。

神谷芳樹 (独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)

写真, 略歴は, 司会 (コーディネータ) を参照。

講演 (3) : トレーサビリティを実現するソフトウェアタグ技術, 日本から世界へ [11:40~12:30]

【講演概要】 ソフトウェア開発におけるトレーサビリティ (説明性, 追跡性の確保) を, 実績・実証データ (エンピリカルデータ) に基づいて実現するソフトウェアタグ技術の概要を, 文部科学省StagE (Software traceability and accountability in global software Engineering) プロジェクトの活動や成果を交えて紹介する。日本での活動とあわせて, そのグローバルな展開を展望した研究活動の一端も示す。



松本健一 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授)

【略歴】 1989年5月大阪大学・基礎工学部・情報工学科・助手, 1993年4月に奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・助教授, 2001年4月から同大学教授, 2006年4月から (独) 情報処理推進機構・参与, 2008年2月から合同会社EASE創研業務執行社員, ソフトウェア工学, 特に, ソフトウェアメトリクスの研究に従事。2007年8月から, ソフトウェアタグの研究開発を目的とした文部科学省StagEプロジェクト研究代表者, 工博。

午後の IT フォーラム [13:30~15:30]

ユーザスタディフォーラム

「ビジネス・エスノグラフィの実践」 [会場 3F 301]

【セッション概要】 昨年の本フォーラム主催セッションとして高い評価を得た, 創造的な仮説構築手法である「ビジネス・エスノグラフィ」について, 本年は, 同手法が企業の創造の現場で活用されている模様を, 国内でいち早く実践を進める企業のエキスパートから報告してもらおう。矢島氏の講演では, エスノグラフィの手法をビジネスに適用している中, 特に, インタビューの手法の1つとして体系化し, 独自のビジネスプロセスに定着させた経緯, 並びに適用のケースを紹介する。井上氏の講演では, 花王が博報堂, インフィールド・デザインと共同で実施した, 「エイジング市場における新機会発見プロジェクト」のプロセスと成果についてご紹介いただく。

本セッションを通じ, ビジネス・エスノグラフィが, 企業のビジネスプロセスにおいて, いかに関活用され得るかを知っていただく, よい機会としたい。そのためにも, 参加者との積極的な対話を通じて, ビジネス・エスノグラフィに対する期待や疑問を明らかにし, 本手法の将来に向けた方向性を共に模索することも目指す。

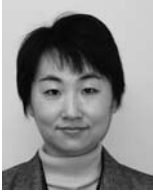


司会 (コーディネータ) : 田村 大 ((株)博報堂 イノベーション・ラボ 上席研究員)

【略歴】 1994年東京大学文学部心理学科卒業, 2005年同大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学, 1994年博報堂入社, 2000年より現職。情報科学, 認知科学を専門とし, ヒューマンファクタに基づく新たな情報技術の発案と開発を推進する。最近では人間の創造性を高める技術に関心を持ち, さまざまなシステムの開発と評価を通じて, あるべき技術の姿を模索する。著書に「センサネットワーク技術」(共著・東京電機大出版局) など。

講演 (1) : IT 業界におけるビジネスエスノグラフィの取組み ~インタビューを中心とした“聞く”ことから“知る”~ [13:30~14:30]

【講演概要】富士通では、2004年より Parc(Palo Alto Research Center) との協働を通じて、エスノグラフィをITビジネスの中に組み込み、「お客様の現場業務・サービスをありのままに把握する」、「ITとIT以外ではなく、人・プロセス・そしてIT」をキーワードに、事実をもとにした、さまざまな施策や改善の起点につなげるべく、エスノグラフィの手法をサービスメニューとして確立している。今回は、特に“聞く”部分に焦点をあて、独自のインタビュー技法を開発し、その適用事例をご紹介します。現場で取り入れる際のインタビューの利点、限界、難しさも含めてお話させていただき、皆様からの意見やアドバイスもいただければ幸いです。

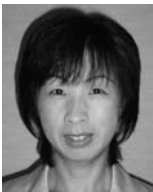


矢島彩子 (富士通 (株) アシユアランス本部 ソーシャルサイエンスセンター 研究員)

【略歴】1996年岩手大学人文社会科学部研究科修了。東京大学文学部心理学研究室で事務補佐員の傍ら、2001年聖心女子大学文学研究科博士後期過程単位取得退学。同年(株)富士通研究所入社。2006年より現職。エスノグラフィをベースにした業務実態を把握するフィールドワーク手法開発に従事した後、現在はお客様のフィールドイノベーションに貢献するべく、現場直結で企業におけるフィールドワークの普及とそのあり方について模索中。

講演 (2) : ビジネスエスノグラフィによる生活者研究の実践 [14:30~15:30]

【講演概要】花王が昨年、博報堂、インフィールド・デザインと共同で実施した「ビジネス・エスノグラフィによる新しいビジネス機会発見プロジェクト」について、そのプロセスと成果を紹介する。「アンチエイジング」をテーマに取り組んだもので、特に、ユーザ観察インタビューの手法、観察インタビュー内容の共有、機会発見フレームに辿り着くまでの議論等、プロセスの重要性を中心にお話します。花王では、これまでさまざまな生活者研究・調査を実施してきたが、そのベースを持った上で、このビジネス・エスノグラフィがどんな特長をもっているのか、どういう成果が得られるのか、ということを実践体験したいわば「体験談」としてお聴きいただければ幸いです。



井上紀子 (花王 (株) 生活者研究センター ビューティケア研究室 リサーチリーダー)

【略歴】1986年早稲田大学大学院理工学研究科博士前期(修士)課程修了。同年、花王(株)入社。研究開発部門において、化粧品の商品開発研究、機能評価研究、店頭用肌測定機器開発等を担当していく中で、ユーザの意識実態把握のために観察・インタビューの経験を積む。2005年花王生活文化研究所(現:生活者研究センター)へ異動、ホームケア分野担当を経て、2007年より現職。

サービスサイエンスフォーラム 「顧客接点をイノベーションするサービスサイエンス」 [会場 3F 303]

【セッション概要】スカンジナビア航空のヤン・カールソンが提唱した「真実の瞬間」という言葉がある。ヤン・カールソンは、お客様と直接接する最前線の従業員の最初の15秒の接客態度が、その航空会社の印象を決めると考えサービス改革を断行した。素晴らしいと評価されるサービスは、お客様との接点を大切にしている。この当たり前といえる顧客接点の重要性を科学的に分析し、サービススタッフが納得して素晴らしいサービスを提供していく論理を議論していきたい。



司会 (コーディネータ) : 門倉純一 (CRM協議会 専務理事)

【略歴】日本アイ・ビー・エム入社後、電子系のCAD/CAMなどのアプリケーション分野の営業に従事、IBM初のVANサービス営業を経て、通信とコンピュータを融合したシステムの営業推進を担当。80年代後半からはコールセンターを中心に担当し、その発展形としてビジネスとしてのCRM部門立ち上げに参加。当部門の責任者を経て現在CRMの営業支援を担当。1970年日本アイ・ビー・エム入社、1980年代後半より、CTI、IVRなどの製品を担当。以後コールセンタービジネスを担当。1996年頃より、CRMビジネスの担当。1999年CRMのマーケティング、営業支援2001年CRM協議会参加。

講演 (1) : 実例からみた顧客満足に対する顧客接点の重要性 [13:30~14:10]

【講演概要】顧客接点を事業の根幹とするコールセンターに15年間かかわってきた中で、実際の顧客対応の経験と、蓄積されたデータベースの分析に基づき、顧客満足度向上の因子を分析。商品が形にならないサービス業という分野での「顧客満足度」の定義、測定、分析と、アナログ情報を電子化する際の情報管理マネジメント、顧客のメンタリティを意識した期待値とサービス内容のマネジメント等を、実際の顧客接点での実例を元に紹介。個人としての視点から見た、企業・商品・サービスへの「評価」と、その「評価」の持つ市場への影響力を考えて、顧客接点の重要性(接点頻度と情報精度)を認識し、具体的な顧客満足度向上の対応策と、その対応策の一環としての情報システムの在り方を提案する。



小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) CIO兼CRM推進部長)

【略歴】1983年(株)リクルート入社、3年間の営業部門での営業経験を経た後、通信事業技術部門、情報システム部門を経験。1993年にマンション管理を行う(株)コスモスライフに転籍、コールセンターの設立・運営と、同時に顧客管理システムの構築・運用に携り、2004年度にCRM協議会ベストプラクティス賞受賞。2006年より現職。

講演 (2) : My サービスサイエンスの進捗報告 [14:10 ~ 14:30]

【講演概要】 自然科学にならってサービスを科学することを思いつき、サービスを分類し、サービスを分解し、サービスをモデル化することを始めた。まず、450種類のサービス業を主要サービスメニューで分類してみた。すると、たった21個のサービスメニューで分類できた。これは、驚きの発見であった。次に、約10個のサービスの分類軸を見つけ、これを2つずつ組み合わせると世の中のサービスを分類してみた。これも面白い発見につながっている。サービスの分解は、プロセスの分解から始まり、サービスの評価の分解、サービス品質の分解などが議論されている。サービスのモデル化は、多くの興味深いモデルが作成されている。この中で、価値が高そうなのが、「サービスの定義」である。最近、取り組み始めたのは、サービスを「事前期待」でマーケティングするという試みである。まだまだ緒に就いたばかりだが、とても面白い研究になりそうである。本講演では、私とその周辺のメンバで取り組んでいるサービスサイエンスの取り組みの進捗を報告する。



諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員)

【略歴】 1971年オムロン入社。85年通産省のΣプロジェクトに参加。95年情報化推進センター長。97年オムロンフィールドエンジニアリングの常務取締役として、企業変革を実践。04年OA協会からIT総合賞、コンタクトセンタアワードのマネジメント部門金賞を受賞。04年7月1日よりソフトブレン副社長。05年7月1日より独立系のコンサルタントとして活動中。サービスや顧客満足を科学的に分析(見える化)し、日本企業が課題とするサービス分野の競争力アップに必要な方法論を提唱している。

パネル討論 : 顧客満足における顧客接点の重要性 [14:30 ~ 15:30]

司会 : 門倉純一 (CRM協議会 専務理事)

写真、略歴は、司会(コーディネータ)を参照。

パネリスト : 小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) CIO兼CRM推進部長)

写真、略歴は、講演(1)を参照。



パネリスト : 菊池 隆 (東京工業大学 経営工学系21世紀COE 特任教授)

【略歴】 1980年東京大学文学部西洋史学科卒業(Bachelor of Letters)、1990年スタンフォード大学経営大学院(MBA)卒業。学部在学中は、ネブラスカ州立大学にも留学(米国マイノリティー研究)。学部卒業後、1980年(現)商船三井入社、海上機器在庫動態管理および海外駐在(米国)を経験。A.T. KearneyおよびMonitor Company(両社とも米国大手戦略系経営コンサルティング会社)において、企業・事業戦略、ブランド価値評価、マーケティング戦略、移転価格、等のプロジェクトに参画、統括。その後、テレマーケティング会社に入社、経営企画部長兼人事本部長を歴任し、顧客のCRM戦略の推進等に従事するとともに人事制度改革を図る。その後、Enterprise IG Japan社(英国系大手ブランド・コンサルティング/デザイン会社の日本法人)に入社し、ブランド・コンサルティング部門の設立に参画。ブランド戦略のあり方、ブランド評価方法の研究、等を推進。2003年7月、ヴィブランド・コンサルティングを共同創設。ブランド経営戦略の研究・実践をさらに推進。2005年1月より現職。専門は無形資産論、経営戦略論、ブランド論、サービス戦略論。東工大ソリューション研究機構Social Brain Forum会員(テーマはサービスイノベーション)。

パネリスト : 諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) 常務執行役員)

写真、略歴は、講演(2)を参照。



パネリスト : 竹林 一 (オムロンソフトウェア (株) 代表取締役社長)

【略歴】 1981年立石電気(現オムロン)(株)入社。事業企画室にて非接触ICカードシステム、ATM後方支援システム等の新規事業化に従事。その後、駅務システム開発部にて国内・海外の駅務システムSE、スロットKANSAI、関東パズネット等大規模システムを開発プロジェクトリーダーとして推進。新規事業開発部長、ゲーパス推進部長、セキュリティエンジニアリング部長、ICカード・モバイルソリューション推進室長を経て2008年から現職。2005年より経済産業省、総務省合同「情報家電ネットワーク化に関する検討会」構成委員。2006年より新エネルギー・産業技術総合開発機構 提案審査委員。2008年よりモノづくり推進会議ロボット研究会委員。著書「モバイルマーケティング進化論」(共著、日経BP企画)。「PMO構築事例・実践法」(共著、ソフト・リサーチ・センター)。「利益創造型プロジェクトへの三段階進化論」(日経ビズテック)。「THEエンジニアコーチング」(技術評論社JAVAプレス連載)。

高度 IT 人材育成フォーラム 「高度 IT 人材のための資格制度構築に向けて」 [会場 3F 311]

【セッション概要】 情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会は、IPA 人材育成本部の協力を得て高度 IT 人材資格検討 WG を立ち上げ、IT スキル標準等のレベル 5～7 に対応する高度 IT 人材を認定するための制度の可能性について検討を行っている。検討の中では、IFIP 等が進めている IT プロフェッショナル資格制度に関する国際的枠組みも考慮されている。一方、経済産業省と文部科学省は、協力して産学人材育成パートナーシップ情報処理分科会で高度 IT 人材育成に向けた検討を進めており、IT スキル標準のレベル 1～4 は情報処理技術者試験を改正して、試験をレベル判定の尺度として用いることができるようにしている。そのため、両制度を統合的に運用することで、さまざまなレベルの IT 人材を包括的に認定する仕組みが構築できることになる。

本セッションでは、高度 IT 人材資格制度に関する検討結果を報告し、その実現に向けた課題や、高度な能力や実績を持つ IT 人材が適正に処遇され、それを通じて IT 業界を活性化するための方策について議論を行う。



司会 (コーディネータ) : 掛下哲郎 (高度 IT 人材育成フォーラム代表 / 佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授)

【略歴】 九州大学情報工学科卒業。同博士後期課程修了。工学博士。現在、佐賀大学知能情報システム学科助教授。2001 年度より学科の教育システムの構築を推進し、2003 年度に JABEE 認定を受けた。2004 年度より情報処理学会アクレディテーション委員会幹事および JABEE 基準委員。IT 人材育成における産学連携活動を推進中。データベースおよびソフトウェア工学を専門とする。情報処理学会、電子情報通信学会等会員。

講演 (1) : IT 人材育成強化・加速プログラムについて [13 : 35 ~ 13 : 55]

【講演概要】 IT 人材育成を抜本的に強化するため、当省は文部科学省と連携し、産学人材育成パートナーシップ情報処理分科会において、各施策を包括的なプログラムとして展開する「IT 人材育成強化・加速プログラム」を提案しました。本プログラムの中では、若い世代が将来のキャリア・イメージを持つための参考となるモデルキャリア開発計画の策定を掲げ、当省で一部職種についてのひな型を作成しました。本プログラムは、さまざまな施策が有機的に連携することで相乗的に効果を上げていくことを狙っており、「IT パスポート試験」の創設を含む新試験制度への移行と 3 つのスキル標準の整合化を図った「共通キャリア・スキルフレームワーク」の策定を行うなど、すでに具体的な取組みを進めているところです。さらに、産学が連携した具体的な人材育成事業を実施するため、産学連携 IT 人材育成実行ワーキンググループを立ち上げ、今年度内に中間報告をとりまとめる予定です。講演では、以上の内容をご紹介します。



奥家敏和 (経済産業省 商務情報政策局情報政策ユニット情報処理振興課 課長補佐)

【略歴】 1995 年 3 月東京大学法学部卒業。1995 年 4 月通商産業省入省産業政策局調査課。1996 年 4 月同生活産業局繊維製品課総括係長。1997 年 6 月同大臣官房総務課法審査委員補佐。1999 年 6 月同工業技術院総務部総務課企画班長。2001 年 1 月内閣官房行政改革推進事務局公務員制度改革推進室参事官補佐。2003 年 8 月在外研究員 (米国ハーバード大学)。2005 年 6 月経済産業省大臣官房秘書課課長補佐。2007 年 7 月同商務情報政策局情報政策ユニット情報処理振興課課長補佐。

講演 (2) : 高度 IT 人材の評価に関する IPA の取り組みと国際動向 [13 : 55 ~ 14 : 15]

【講演概要】 IT 力の活用があらゆる産業競争力の源泉であることは、もはや言を俟たない。そして、その IT 力の担い手が IT 人材であることも明白である。つまり、高い能力をもった IT 人材を十分に確保することは、IT 業界は言うに及ばずすべての業界の競争力を高める上で基本的な条件となっている。IPA では、必要な IT 人材像とレベルを、スキル標準によって“見える化”し、これらと情報処理技術者試験を整合させることによって、各個人がどのレベルに相当するのかわ、客観的に、しかもできるだけ簡便に評価できる仕組みを作りつつある。しかし、高度な人材になればなるほど、単に試験のみでの評価では不十分であり、経験や実績、さらにはプロフェッショナルとしての貢献など幅広い観点からの総合的な評価が必要となる。この講演では、そのような課題に対して IPA がどのように取り組もうとしているかについて述べる。さらに、このような課題に関する海外での動向についても紹介する。



松田晃一 ((独) 情報処理推進機構 IT 人材育成本部 本部長)

【略歴】 1968 年京都大学工学部卒業。1970 年同大学院修士課程修了後、電電公社に入社。データ通信システム用 OS の研究開発、システムの性能評価、ソフトウェア開発技術の研究に従事。NTT コミュニケーション科学研究所長、先端技術総合研究所長などを歴任。NTT アドバンステクノロジー社代表取締役常務、NTT-AT IPS 社代表取締役社長を経て、2008 年より現職。情報処理学会フェロー、電子情報通信学会フェロー、工学博士。

講演 (3)：高度 IT 人材資格制度の検討結果について [14:15～14:35]

【講演概要】 情報処理学会 IT プロフェッショナル委員会では、情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じて、その社会的地位の向上を図るとともに、我が国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるように、産学官との連携を含めた諸施策の検討を行っている。その一環として、高度 IT 人材資格検討 WG を設け、高度 IT 人材の資格制度の可能性を検討している。IT スキル標準のレベル 1～3 については新しい情報処理技術者試験をレベル判定の尺度として用いることができるが、レベル 4 では情報処理技術者試験に加えて業務経験等の評価が必要であり、さらにレベル 5 以上については情報処理技術者試験を判定に用いることはできない。このため、高度 IT 人材の資格制度を実現するに当たっては、レベル 4 または 5 以上の判定を行う方法の具体化が必要になる。また、国際的な整合性のある資格制度とするためには、更新や CPD を含めた制度設計としなければならない。本講演では、これらの課題について高度 IT 人材資格検討 WG で検討してきた結果について報告する。



旭 寛治 (情報処理学会 高度 IT 人材資格検討 WG 座長 / (株) 日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役社長)

【略歴】 1971 年 (株) 日立製作所入社。汎用コンピュータおよびスーパーコンピュータのオペレーティングシステム、グループウェア等の開発に従事。オープンソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長等を経て、2004 年より現職。1977～78 年米イリノイ大学留学。1999～2000 年度情報処理学会理事。2005～2006 年度情報処理学会副会長。ACM、IEEE 会員。

パネル討論 [14:35～15:30]

【討論概要】 高度な能力や実績を持つ IT 人材は「社会の宝」である。そうした人材を可視化し、適切な処遇や活躍の場を与える上でも高度 IT 人材資格制度の重要性は高い。本パネル討論では、情報処理学会が提案する高度 IT 人材資格制度について一般参加者を含めた議論を行い、制度の立ち上げおよび継続的運営、関連団体との連携、IT 分野におけるプロフェッショナルコミュニティの育成、IT プロフェッショナルのあり方などを含む今後の取り組みについて展望する。

司会：掛下哲郎 (高度 IT 人材育成フォーラム代表 / 佐賀大学 工学部 知能情報システム学科 准教授)

写真、略歴は、司会 (コーディネータ) を参照。

パネリスト：旭 寛治 (情報処理学会 高度 IT 人材資格検討 WG 座長 / (株) 日立テクニカルコミュニケーションズ 代表取締役社長)

写真、略歴は、講演 (3) を参照。



パネリスト：上原 智 ((株) NTT データ 人事部 人材開発担当 課長)

【略歴】 1993 年大阪大学基礎工学部情報工学科卒業、NTT データ通信 (株) (現：(株) NTT データ) 入社。以降、ソフトウェア開発に関する研究開発、情報システム開発および技術支援等に従事。2001 年大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻博士後期課程修了、博士 (工学)。以降、技術動向調査業務等を経て、2007 年より現職。現在、社内の人材育成に従事。

パネリスト：奥家敏和 (経済産業省 商務情報政策局情報政策ユニット情報処理振興課 課長補佐)

写真、略歴は、講演 (1) を参照。

パネリスト：松田晃一 ((独) 情報処理推進機構 IT 人材育成本部 本部長)

写真、略歴は、講演 (2) を参照。

Web 2.0 フォーラム 「Web 2.0 の将来：可能性と課題」 [会場 3F 312]

【セッション概要】 かつては単なるパスワードとしてしか見られていなかった Web 2.0 の概念は IT 産業そして社会に大きな影響を起している。Web 2.0 はどのようなポジティブな変化をもたらしたのだろうか？ また、どのような課題をもたらしたのだろうか？ 本セッションでは、Web 2.0 のポジティブな面とネガティブな面について議論を行うとともに、Web 2.0 の先にあるものいわば Web 3.0 の姿についての予測を試みる。



司会 (コーディネータ)：栗原 潔 ((株) テックバイザー・ジェイピー 代表取締役・弁理士 / 金沢工業大学 客員教授)

【略歴】 (株) テックバイザー・ジェイピー 代表。東京大学工学部卒業、マサチューセッツ工科大学電子工学計算機科学課修士課程修了。日本 IBM、ガートナー・ジャパンを経て 2006 年より独立。先進的 IT および知的財産権を中心とするコンサルティング活動に従事。弁理士 技術士。

講演 (1) : エンタープライズ・ソーシャル・アプリケーションの可能性 [13:30~13:50]

【講演概要】 Web 2.0による人と人とのつながりを活かしたコンピューティング形態は従来型のエンタープライズ・アプリケーションにも大きな影響を与えている。典型的にはCRM 2.0, ソーシャルCRMなどの動きが見られる。本講演では、エンタープライズ・アプリケーションとソーシャル・コンピューティングの融合にフォーカスして、企業内におけるWeb2.0の今後のインパクトについて展望する。

栗原 潔 ((株)テックバイザージェイピー 代表取締役・弁理士/金沢工業大学 客員教授)

写真, 略歴は, 司会(コーディネータ)を参照。

講演 (2) : 大企業における Web2.0 の活用状況 [13:50~14:10]

【講演概要】 「ベンチャーや中小企業が導入するものと思われがちなWeb 2.0だが、海外を中心に、大企業で活用される例も増えている。その代表的な例を紹介するとともに、大企業でWeb 2.0が活用される際の課題と、将来の可能性について考察する。



小林啓倫 ((株)日立コンサルティング シニアコンサルタント)

【略歴】 1997年筑波大学大学院修了。TIS(株), アクセンチュア(株)等を経て、2003年にBabson CollegeにてMBAを取得。現在は日立コンサルティングにて、Webサービスの企画・運営、企業内の新規事業サポート等のプロジェクトに携わる。

講演 (3) : Web2.0 とソーシャルメディア [14:10~14:30]

【講演概要】 Web2.0のブームは終わり昨今IT業界ではソーシャルというキーワードに注目が集まっている。日本におけるこのソーシャルメディアの現状を振り返り、今後IT業界に与える影響などについて考察する。



吉川日出行 (みずほ情報総研(株) コンサルティング部 シニアマネジャー)

【略歴】 1990年富士総合研究所(現:みずほ情報総研)に入社。現在は、情報共有や情報活用を主テーマに企業内情報システムに関するコンサルティングを展開中。最近ではナレッジマネジメントやエンタープライズサーチに関するイベント・セミナーなどで基調講演を数多く経験している。主な著書に「サーチアーキテクチャ~『さがすの情報科学』」(ソフトバンククリエイティブ)など。技術士(情報工学部門), システムアナリスト, ITコーディネータ。

パネル討論 [14:30~15:30]

【討論概要】 本パネルでは、各講演の質疑応答を行うとともに、Web 2.0がもたらした真の価値について考察し、Web 2.0をめぐる将来動向についての議論を行う。

司会: 栗原 潔 ((株)テックバイザージェイピー 代表取締役・弁理士/金沢工業大学 客員教授)

写真, 略歴は, 司会(コーディネータ)を参照。

パネリスト: 小林啓倫 ((株)日立コンサルティング シニアコンサルタント)

写真, 略歴は, 講演(2)を参照。

パネリスト: 吉川日出行 (みずほ情報総研(株) コンサルティング部 シニアマネジャー)

写真, 略歴は, 講演(3)を参照。

情報処理学会の会員になりませんか!

www.ipsj.or.jp

社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化
社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

情報処理学会は IT にかかわる皆様のお役に立ちます。

新規会員
募集中

■活動の概要

- 機関誌（「情報処理」「情報処理学会論文誌」）の発行
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー他）
- 情報処理教育活動
- 国際交流
- 標準化活動
- 出版活動

■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

個人会員

正会員：当学会の中心的会員で、IT 分野に携わっているかまたは興味のある個人
学生会員：学校に在学中の個人
準会員：小中高等学校の教職員、理事会が認めた海外居住の個人
名誉会員：当学会の活動において特別な功績のあった個人

賛助会員

当学会の活動をサポートする法人

■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます。

2009年

特集：視覚情報の処理と利用（1月号）、アクセラレータ、再びスペースコン化の切り札—（2月号）
連載：わが支部の魅力はここにあり、他

2 電子図書館（BookPark）で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

3 「連続セミナー」に会員価格（7,000円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2008年度は「インターネットの進化」をテーマに、6回の開催がありました。

4 ホットトピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

ホット
トピックス

インターネット、Eビジネス、セキュリティ、ユビキタス・モバイル・情報家電・組み込み、ディメンダブルシステム、低消費電力化、リコンフィギャラブルプロセッサ、グリッド、UML・オブジェクト指向・アスペクト指向、エージェント、セマンティックウェブ・XML・データマイニング、マルチメディア、エンタテインメント・バーチャルリアリティ、e-ラーニング、バイオインフォマティクス、バイオメトリクス、量子コンピューティング・DNAコンピューティング、進化的計算・複雑系、ITS、金融工学・経済物理

5 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。



お問い合わせは、
(社) 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp



新刊!!

ITText **Java/UMLによる
アプリケーション開発**布広永示・高橋英男 共著
A5判/208頁/本体2,600円(税別)ITText **Javaオブジェクト指向
プログラミング**布広永示 編著
A5判/280頁/本体2,800円(税別)ITText 一般教育シリーズ
情報と社会駒谷昇一 編著
A5判/220頁/本体2,500円(税別)ITText 一般教育シリーズ
情報システム基礎神沼靖子 編著
A5判/228頁/本体2,500円(税別)ITText 一般教育シリーズ
情報とコンピューティング河村一樹 編著
A5判/218頁/本体2,500円(税別)ITText **コンパイラとバーチャルマシン**今城哲二・布広永示・岩澤京子・千葉雄司 共著
A5判/212頁/本体2,800円(税別)ITText **コンピュータグラフィックス**魏 大名・Carl Vilbrandt・Roman Durikovic・先田和弘・
向井信彦 共著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)ITText **コンピュータネットワーク**松下 温・重野 寛・屋代智之 共著
A5判/216頁/本体2,500円(税別)ITText **音声認識システム**鹿野清宏・伊藤克巨・河原達也・武田一哉・山本幹雄 編著
A5判/216頁/CD-ROM付/本体3,500円(税別)ITText **エージェント工学**西田豊明・木下哲男・北村泰彦・間瀬健二 共著
A5判/226頁/本体2,800円(税別)ITText **ヒューマンコンピュータ
インタラクション**岡田謙一・西田正香・葛岡英明・塩澤秀和・仲谷美江 共著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)ITText **オペレーティングシステム**野口健一郎 著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)ITText **データベース**速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 共著
A5判/196頁/本体2,500円(税別)ITText **ソフトウェア工学演習**伊藤 潔・廣田豊彦・富士 隆・熊谷 敏・川端 亮 共著
A5判/228頁/本体2,800円(税別)ITText **情報リテラシー**海野 敏・田村恭久 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)ITText **人工知能**本位田真一 監修 松本一教・宮原哲浩・永井保夫 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)ITText **コンピュータアーキテ
クチャ**内田啓一郎・小柳 滋 共著
A5判/236頁/本体2,800円(税別)ITText **データマイニングの基礎**元田 浩・津本周作・山口高平・沼尾正行 共著
A5判/292頁/本体3,200円(税別)ITText **自然言語処理**天野真家・石崎 俊・宇津呂武仁・成田真澄・福本淳一 共著
A5判/192頁/本体2,500円(税別)ITText **応用Web技術**市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/210頁/本体2,500円(税別)ITText **認知インタフェース**加藤 隆 著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)ITText **プログラム仕様記述論**荒木啓二郎・張 漢明 共著
A5判/210頁/本体2,800円(税別)ITText **情報と職業**駒谷昇一・辰己丈夫・楠元範明 共著
A5判/232頁/本体2,500円(税別)ITText **アルゴリズム論**浅野哲夫・和田幸一・増澤利光 共著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)ITText **ソフトウェア開発**小泉寿男・辻 秀一・吉田幸二・中島 毅 共著
A5判/224頁/本体2,800円(税別)ITText **基礎Web技術**松下 温 監修/市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)ITText **知識マネジメント**大澤幸生 編著
A5判/232頁/本体2,800円(税別)ITText **情報セキュリティ**宮地充子・菊池浩明 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)ITText **分散処理**谷口秀夫 編著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)ITText **Linux演習**前野謙二・落合 昭・生野荘一郎・塩澤秀和・高島俊徳 共著
A5判/224頁/本体2,500円(税別)ITText **インターネットプロトコル**阪田史郎 編著
A5判/272頁/本体2,800円(税別)ITText **組込みシステム**阪田史郎 著 高田広章 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)ITText **システムLSI設計工学**藤田昌宏 編著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)ITText **Java基本プログラミング**今城哲二 編 布広永示・マッキン ケネスジェームス・
大見嘉弘 共著
A5判/234頁/本体2,500円(税別)ITText **人画像処理**越後富夫・岩井儀雄・森島繁生・鷲見和彦・井岡幹博・
八木康史 共著
A5判/258頁/本体2,800円(税別)ITText **情報倫理**白木善尚 編 村松 純・岩田賢一・有村光晴・渋谷智治 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

お申し込みは



オーム社

101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1
TEL 03(3233)0641 FAX 03(3293)6224<http://www.ohmsha.co.jp/>
本体価格(税別)は変更する場合があります。

http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/71kai/

第71回情報処理学会全国大会

ITが創る豊かさ

2009年 3/10(火) → 3/12(木)

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
(滋賀県草津市野路東1-1-1)

招待講演企画

第1イベント会場【プリズムハウス1F プリズムホール】

10日(火) 13:00-14:15

① ヒトとマシンの協働を支える4次元都市時空間情報インフラ

柴崎 亮介(東京大学 空間情報科学研究センター センター長)

11日(水) 13:50-14:30

② Software Standards - Providing Support for Today's Software Crisis

Susan Kathy Land(IEEE-CS 会長)

11日(水) 14:35-15:15

③ The Seoul Accord : Toward Mutual Recognition of Accredited Computing Programs for Computing Professions

Sung Jo Kim(KIISE 会長)

12日(木) 13:00-14:15

④ 時代の求める技術開発

三輪 真(パナソニック(株)東京R&Dセンター 所長)

イベント企画

【特別セッション】

第1イベント会場【プリズムハウス 1Fプリズムホール】

10日(火)9:30-12:00

① 最先端IT技術による防災・減災の現在と未来

10日(火)14:30-17:20

② コンピュータ将棋は止まらない - 人間トップに勝つコンピュータ将棋 -

11日(水)9:30-12:00

③ この1曲が私の研究テーマを決めた

11日(水)15:30-17:30

④ 加速度センサとその応用技術・事例 【電子情報通信学会 ISS UBIC研究会協賛】

12日(木)9:30-12:00

⑤ 擬人化エージェントとの音声対話を実現する基盤ソフトウェア

12日(木)14:30-16:30

⑥ 未来の生活を変えるAIPSロボティクス ~Artificial Intelligent Partner System~

~未来の生活を変えるメカエレキソフトの融合技術~

⑦ ロボカップ春季競技会 第1次リーグ [11日(水)10:00-17:00]

決勝リーグ [12日(木)10:00-15:00]

【シンポジウム】

第2イベント会場【コーニングハウス1 1F C101】

10日(火)9:30-12:00

① 学会の新たなベクトルに向けて:

情報セキュリティ心理学とトラスト研究グループの立ち上げと期待される今後の活動

10日(火)14:30-17:00

② 私の詩と真実

11日(水)9:30-12:00

③ 2008年度以降の一般情報教育のあり方を問う

11日(水)15:30-17:30

④ 情報を副専攻とする理工系学科の知識項目

12日(木)9:30-12:00

⑤ ソルアコード - 情報専門学部教育認定の国際相互承認 - [JABEE協賛]

12日(木)14:30-16:00

⑥ IT専門職大学院を対象とした認証評価モデル

聴講参加・講演論文集・懇親会(税込)

聴講参加費 費用

正会員 3,000円

正会員(CD付) 8,000円

一般(非会員) 6,000円

学生(会費非会員同様) 無料

講演論文集代 予約価格(1/13迄) 定価

セット(CD-ROM付) 35,000円 43,000円

分冊 7,000円 9,000円

CD-ROMのみ 7,000円 7,000円

懇親会参加費 予約価格 当日

一般(正会員・非会員) 4,000円 5,000円

学生 2,000円 3,000円

第71回全国大会スポンサー



株式会社 とめ研究所



株式会社 知能情報システム



Microsoft Imagine Cup



問合せ先:(社)情報処理学会 事業部門
E-mail: jigyo@ipsj.or.jp
Tel:(03)3518-8373 Fax:(03)3518-8375

「ソフトウェアジャパン 2009」企画運営

社団法人 情報処理学会 技術応用運営委員会

委員長 徳田 英幸 (慶應義塾大学)
幹事 中田登志之 (日本電気)
委員 青山 幹雄 (南山大学)
芝田 晃 (三菱電機)
柴山 悦哉 (東京大学)
武田 浩一 (日本アイ・ビー・エム)
田中 譲 (北海道大学)
西野 文人 (富士通研究所)
松原 仁 (公立ほこだて未来大学)
守安 隆 (東芝ソリューション)
吉野 松樹 (日立製作所)

社団法人情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2009 実行委員会

委員長 徳田 英幸 (慶應義塾大学)
副委員長 中田登志之 (日本電気)
委員 掛下 哲郎 (佐賀大学) [高度 IT 人材育成フォーラム]
栗原 潔 (テックバイザージェイピー) [Web2.0 フォーラム]
榊原 彰 (日本アイ・ビー・エム) [IT アーキテクト/CIO フォーラム]
神成 淳司 (慶應義塾大学) [イノベティブ社会基盤フォーラム]
諏訪 良武 (ワクコンサルティング) [サービスサイエンスフォーラム]
田村 大 (博報堂) [ユーザスタディフォーラム]
萩川 友宏 (静岡大学) [福祉情報システムフォーラム]
安信千津子 (日立コンサルティング) [IT ダイバーシティフォーラム]

ソフトウェアジャパン 2009 の開催にあたりまして、本会議の開催趣旨にご賛同をいただきましたスポンサー様、サポーター様ならびにご協賛、ご後援をいただきました関係省庁、団体様、誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申し上げます。

Software Japan 2009

▶ SUPPORTERS

株式会社富士通
ソフトウェアテクノロジーズ



富士通ミドルウェア株式会社



国立大学法人東北大学電気通信研究所



ワクコンサルティング株式会社



三菱電機株式会社



日本電信電話株式会社



鉄道情報システム株式会社



慶應義塾大学環境情報学部



東芝ソリューション株式会社



ティーピーケー・システムズ株式会社



オープンリソース株式会社



オープンワークス株式会社



富士通ミッションクリティカル
ソフトウェア株式会社



株式会社とめ研究所



東京工科大学



東芝情報システム株式会社



日本情報通信コンサルティング
株式会社



リコーソフトウェア株式会社



株式会社SSL/パスワードサービス



NTTソフトウェア株式会社



株式会社構造計画研究所



南山大学数理情報研究センター



オムロン株式会社



論文/ビジネス翻訳
Crimson Interactive



▶ メディア協賛

ITmediaエンタープライズ



@IT



記載の名称・ロゴは、各社・団体の商標です。掲載は申込み順です。